

施策カールテ

1 施策の位置付け

担当課	保健福祉総務課
-----	---------

総合計画 政策の柱	市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	都市の福祉力を高める	取組の 基本方向	「都市の福祉力を高める」ため、福祉教育等により地域の人材育成を図るための「市民の福祉活動への参画促進」、市民の保健・福祉ニーズに迅速かつきめ細かに対応するサービス体制を構築するための「保健・福祉サービスの総合化の推進」、ハードとソフトの双方からノーマライゼーション(等しく生きる社会)の実現を図るための「ユニバーサルデザインの推進」、適切な施設サービスを提供するための「社会福祉施設の充実」、住み慣れた地域において、自立した生活を送る環境をつくるための「保健・福祉サービス基盤と支援機能の充実」に、重点的に取り組みます。	政策目標 (基本施策目標)	充実した保健・福祉サービスにより、住み慣れた地域において自立した生活を送っています。
--------------	---------------------------	----------------	------------	-------------	--	------------------	--

2 施策の現状と達成状況、課題の抽出

施策名	ユニバーサルデザインの推進						達成率 (%)	
	施策指標(単位)							
施策目標	市民の誰もが安心して快適に生活を送るための都市環境や社会環境が整っています。						79.3%	
施策を取巻く環境	少子・高齢化の急速な進行や地域での相互扶助の意識の希薄化などにより、地域の支え合いや、誰もが安心して快適に生活を送るための環境づくりがこれまで以上に求められており、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの理念に基づき、市民が高齢者や障がい者等に対する思いやりのこころをはぐくむことができるよう「こころのユニバーサルデザイン」を推進するソフト面からの取組や、生活・移動環境の改善に向けたハード面からの取組など、福祉基盤の総合力を高めることが重要となっている。							
市民の 施策満足度	23.2%	達成度 (単年度目標)	達成している (90%以上)	概ね達成 (70%~90%未満)	達成していない (70%未満)	説明 市公共建築物や民間公共施設のバリアフリー化など、ハード面の取組については計画的な整備により着実に進展しており、20年度単年度目標については、達成されている。		
	市民の 施策重要度		68.2%	必要 (住民・社会ニーズ)	増加している			横ばい
効率性 (事務事業の進捗)			十分である	不十分な事業が 一部ある	不十分な事業が 複数ある		説明 公共施設のバリアフリー整備などハード面の進捗は順調であるが、ソフト面では、障がい者シンボルマーク等について約3分の2の市民が認知していない現状から、市民意識の啓発はまだ不十分であり、効果・効率的な推進手法について検討する必要がある。	
有効性 (政策目標への効果)	十分である		やや不十分である	不十分である	説明 誰もが住み慣れた地域において自立した生活を送るには、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」という「ユニバーサルデザイン」の理念に基づく意識面や生活基盤上の環境づくりが必要であり、施策目標に対する有効性は高い。			
現状課題の抽出							目標はおおむね達成されているが、少子・高齢社会の進行や地域扶助機能の希薄化により、今まで以上に地域資源や民間活力を巻き込んだソフト・ハード両面からの福祉施策が重要となっている。ソフト面においては、意識啓発など形に表れ難く長期的な取り組みが要されるため、福祉のまちづくり表彰や福祉の祭典などあらゆる機会を通して市民の福祉意識の一層の高揚を図るとともに、地域資源を有効活用し、地域が主体となった福祉施策を推進していく必要がある。また、ハード面では、市公共建築物の整備を計画的に執行するとともに、補助制度により民間公共施設の一層の整備推進を図っていく必要がある。	

3 今後の取組方針

取組の 考え方	ハード・ソフトの双方から「ユニバーサルデザインの推進」に総合的に取り組み、既存の事務事業を継続実施するとともに、市民主体の福祉のまちづくりを推進するため、福祉に対する気運の醸成や地域の自主的な福祉活動を促進する取組を充実させていく。	政策評価 会議意見	指標となっている公共建築物のバリアフリー化は8割近く進捗しているが、市民満足度は依然として低い状態である。これは、高齢者や障がい者が地域で生活する上でいまだ不安があることを示していると考えられる。このため、誰もが地域において安心して自立した生活を送ることができるよう、共に支え合う地域社会の実現に向けて、より一層「こころのユニバーサルデザイン」を推進していく必要がある。
------------	--	--------------	---

4 施策を構成する事務事業一覧

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	H19	H20	H19	H20	優先度	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
					目標値	目標値	事業費 (千円)	事業費 (千円)			
					実績値	実績値					
1	こころのユニバーサルデザイン推進事業 担当課 保健福祉総務課	すべての市民	H20	障がい者シンボルマーク等認知度(%)	-	-	-	0	A	継続	誰もが安心して快適に生活できるまちとなるには、共に支え合う地域社会の実現が必要である。そのためには、「こころのバリアフリー」を深化させた「いつでも、どこでも、だれでもよい」というユニバーサルデザインの啓発事業を継続して展開し、当該理念を意識面に取り入れていくことが必要である。
					-	35					
2	やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり事業 担当課 保健福祉総務課	すべての市民	H13	表彰の募集に対する応募数(件)	30	30	923	3,373	A	継続	今後も一層効果的な周知方法を検討しながら福祉のまちづくり2号表彰等を継続実施し、福祉意識の高揚を図っていく。
					13	16					
3	やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり公共施設整備費補助金(単独) 担当課 保健福祉総務課	市内で公共施設の整備を行う者	H12	補助対象工事件数(件)	6	7	5,063	6,799	A	継続	不特定多数の市民が利用する民間公共施設のバリアフリー整備の費用の一部を補助することにより、すべての市民が安心して円滑に利用できる施設整備を促進し、快適な生活環境の創出に寄与させていく。
					6	10					
4	宇都宮市民福祉の祭典開催 担当課 保健福祉総務課	すべての市民	H19	参加者数(人)	8,500	10,200	945	1,103	B	継続	本市の総合的な福祉イベントとして、市民意識の高揚を図る効果的な実施方法を検討しながら各団体等と連携協力し、継続実施することにより市民福祉の増進を図る。
					8,500	8,800					
施策事業費合計							6,931	11,275			